常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年５月２８日(金)

◇ 常磐東小の初夏　～二景～

＜第一景＞

写真の花をご存じだろうか。

ふわっと重なる大きめの葉の上に、まるで「上方から花だけ落ちてきて、乗っかっているかのよう」に咲く白花。花弁は４枚で水平方向に開く。花の形は「白い桔梗」のよう。ちなみに桔梗は花弁が５枚で上向きには花を開かない。

本当に特徴的な花である。

この可憐な花は、来賓玄関の低木「ドウダンツツジ」の中央からぐいっと幹を伸ばす【ヤマボウシ】だ。

昨年との大きな違いは、花数が格段に多いこと。桜階段の「ソメイヨシノ」や「ハクモクレン」、プール周りの「紅白梅」、東門の「ナンジャモンジャ」と同様に、ウメノキゴケの除去が樹木を生き返らせた。

さて、「ヤマボウシ」の花。雨露を纏うと、雫の重みで花弁をぐいっともたげる。

するとどうだ。

「ヤマボウシ」の名のとおり、こんもりした葉が球形となり、人の顔のようになったその上に、ちょこんと佇む白花が、洒落た帽子を乗せているように見える。

梅雨に花開く来賓玄関前の「ヤマボウシ」は、本校の初夏の顔である。

＜第二景＞

上の写真は、学校から南東に臨む夕方の景色。

雨露と雑木林によって生み出された霧が上方に立ち昇り、高架をまるっと包む。朝霧のように下方に立ち込めないため、樹木の緑は鮮やかなのだ。中空で景色を分かつようにしてコントラストを奏で、対照的な情景が趣を醸し出す。いつもははっきり見える高架が霞むのも、またよい。

そして、下の２枚の写真。左が４月上旬、右が５月下旬に撮影したものだ。

明らかな違いは樹木の葉の色。浅黄色の若葉が緑を濃くし、たくましい深緑へと姿を変えた。新芽のみで若葉を備える準備段階だった葉のない樹木も、すっかり緑の衣を纏っている。山の色が、間近に迫った夏の到来を伝えてくれる。

季節の変化を目で見る景色から感じられるのが、常磐なのである。